

保護者の皆様

大阪府立摂津支援学校

校長 藤井 雅乗

令和3年度 「学校教育自己診断」実施と結果について（報告）

日ごろは、本校の教育にご理解ご協力いただき、ありがとうございます。

さて、昨年10月に実施しました『学校教育自己診断』の集計結果がまとまりましたので、ご報告します。今回の結果とご意見を次年度に生かし、さらに充実した教育活動を展開していきたいと考えています。

今後とも、ご協力、ご支援のほど、よろしく申し上げます。

1. 実施時期・実施方法

【保護者】 10月中旬に配付、回収

【児童生徒】 10月下旬に各学年で実施

【教職員】 10月中旬に配付、回収

- ・全体的に肯定的回答が増えてきているので改善点を見出せるよう質問内容を見直し精査した。
- ・昨年度コロナウイルス感染症対策のため、削除していた「行事」と「PTA活動」を質問項目に再掲した。「交流」と「部活動」については9月時点で実施できていなかったため削除を継続。
- ・今年度も保護者向けの配付は1回とし、締切後「すぐメール」にて提出の依頼をした。

2. 提出率

（過去3年の比較） ※イ：イラスト版、文：文章版

	学部\年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
保護者	小学部	93.4%	92.2%	96.7% (119/123名)
	中学部	87.0%	85.5%	83.5% (91/109名)
	高等部	84.7%	80.6%	86.5% (90/104名)
児童生徒	小学部	8.4%	13.8%	17.8% (122/123名)
	中学部	93.0%	67.3%	66.0% (144・文28/109名)
	高等部	65.3%	82.8%	75.9% (129・文50/104名)
教職員		99.2%	99.2%	99.2% (137/138名)

※昨年度と比べ、保護者の回答は中がやや減少、小と高は増加した。児童生徒の回答は小で増加したが中高で減少。教職員の回答は変化なしであった。

3. 結果報告（集計の詳細は学校HPをご覧ください）※割合は無回答数を除いて算出

①保護者向け診断票 肯定的回答（A.よくあてはまる+B.ややあてはまる）の割合について

（ ）は昨年度の数値

	90%台	80%台	全項目数		R1	R2	R3
項目数	23 (22)	1 (1)	24 (23)	全項目平均	92%	94%	95%

・昨年度に引き続き肯定的評価が一番低かった項目

		R1	R2	R3
13	学習活動に、大型テレビ、パソコン、タブレット等のICT機器が活用されている。	なし	87%	84%

・今年再掲した項目		R1	R2	R3
14	体育祭や学校祭、校外学習、修学旅行などの行事は、子どもたちが楽しめるように工夫されている。	97%	—	94%
22	学校では、PTA活動が活発に行われている。	96%	—	91%
・昨年度に引き続き肯定的な回答が増加した項目		R1	R2	R3
23	情報提供の手段として、学校のホームページやメール配信サービスが活用されている。	74%	90%	96%

- ・昨年度より±10ポイント以上の項目はなかった。
- ・無回答率（判断できない、わからない）が20%を超える項目は11「いじめ」、13「ICT活用」、17「学校設備」、22「PTA」だった。昨年度無回答率が20%以上だった10「環境、国際理解、暮らし等」、12「進路指導」は19%と依然無回答率が高い状況であった。（11、13は昨年度より継続）

②児童生徒向け診断票

肯定的回答（文章版「A.よくあてはまる+B.ややあてはまる」、イラスト版「はい」）について
（ ）は昨年度の数値

	90%台	80%台	70%台	60%台	全項目数
文章版	6 (8)	8 (9)	4 (2)	1 (1)	19 (20)
イラスト版	6 (8)	3 (0)	—	—	9 (8)
文章版、イラスト版共通項目	4 (6)	5 (2)	—	—	9 (8)

	R1	R2	R3
全項目平均	79%	87%	84%

・昨年度より-10ポイント以上の項目		R1	R2	R3
3	学校目標の「笑顔きらめく元気な学校」、「君の得意を見つけ伸ばそういいところ」、「つながる心 つなげよう未来へ」を知っている。	78%	79%	68%

③教職員向け診断票 肯定的回答（A.よくあてはまる+B.ややあてはまる）の割合について （ ）は昨年度の数値

	90%台	80%台	70%台	全項目数		R1	R2	R3
項目数	14 (25)	15 (12)	7 (3)	36 (40)	全項目平均	91%	90%	86%

・昨年度（一昨年度）より-10ポイント以上の項目		R1	R2	R3
5	学習評価では3観点を意識し、バランスよく評価している。	94%	95%	77%
22	教室や特別教室（掲示・作品展示を含む）は清掃、整理整頓され、知的障がい支援学校の児童生徒の生活の場に適した教育環境が整っている。	86%	90%	78%
26	教職員はPTA活動に協力している。	83%	—	73%

・昨年度-10ポイント以上だった項目		R1	R2	R3
19	学校運営に、分掌部会や学部会、学年会などの会議の内容や教職員の意見が反映されている。	90%	79%	76%
20	教職員の適性・能力に応じた校内人事や校務分掌の分担がなされ、教職員は意欲的に取り組んでいる。	81%	70%	71%

④各診断票の横断比較について（別表7、及び「5. 考察及び今後の課題」参照）

4. 意見について（別紙参照、学校 HP への掲載はありません）

主に以下のような内容について、様々なご意見をいただきました。意見から抜粋してできる限り別紙の通り回答し、対応可能なものについては改善していく。いただいたご意見、ご指摘、ご提案等は教職員全体で共有し、よりよい学校づくりに生かしていく。

・教科書 ・教育課程、授業、宿題 ・コロナ関連 ・学校生活 ・校内連携、家庭との連携 ・学校の情報発信 ・オンライン、ICT の活用 ・施設設備 ・通学バス ・給食 ・学校教育自己診断について ・【教職員】学校運営についてなど

5. 考察および今後の課題

①今年度も多くの保護者にご協力いただき、高い回収率となった。肯定的な回答が多数であったが、無回答や「判断しにくい」「わからない」というご意見も複数いただいた。感染対策のため保護者の来校する機会が減っていることと情報公開不足が要因の一つといえる。

②【保護者】項目 23「HP、メールの活用」は肯定的評価が+6 ポイントとなった。コロナに関わる臨時休校や校長室だよりの HP 掲載のお知らせ、PTA 研修のお知らせ、体育祭の動画配信等も影響していると考えられる。現在メール登録率は小中学部が 100%、高等部は 95%となり、関心とニーズは非常に高い。

③ 「学習評価」は、「評価の 3 観点」に関わる内容に変更

		R1	R2	R3	備考
保護者 項目 6	学習評価では、知識・技能の習得状況のみに偏ることなく、児童生徒が考えて表現したり、学習に意欲的に参加したりする姿などがバランスよく評価されている。	95 %	94 %	96 %	大きな変化なし
教職員 項目 5	学習評価では 3 観点を意識し、バランスよく評価している。	95 %	95 %	77 %	昨年度より -18 ポイント

※教職員の評価は下がったが「3 観点による学習評価」ができていないか否かを今年度新しく質問内容に入れたことがあげられるので、昨年度までと単純比較はできない。

④「学校教育目標」の評価は、児童生徒、教職員ともに下がった。保護者と比較しても-10 ポイント以上となっている。これまで全校集会等で生徒会を中心に周知していたが、コロナのため全校で集まる事がほとんどなくなり、新入生や新転任の教職員に学校教育目標が十分に知られていないものと考えられる。

⑤復活した項目について、「行事」の評価は 2 年前と大きな差はなく、コロナのため、2 年前とは異なる形で行事に取り組んではいないものの、教職員は子どもたちが楽しめるように工夫し、保護者・児童生徒からは肯定的な回答が得られている。「PTA 活動」については、4 月の PTA 総会が書面開催になったことや、保護者が行事に参加できないなどが影響し、2 年前の評価より保護者・教職員ともに下がっている。今後も継続してコロナ禍でもできる活動を模索していきたい。

⑥児童生徒の肯定評価の全項目平均は-3 ポイントだが 80%台を維持している。

・肯定評価 70%台の項目（抜粋）

		R1	R2	R3
1	学校へ行くのが楽しい。	81%	82%	77%
7	先生には自分の気持ちを言ったり相談したりできる。	74%	78%	78%
17	校長先生の話は分かりやすい。	81%	80%	78%

・教職員より-10 ポイント以上で、認識に差があった項目

		児童生徒	教職員
3	学校目標の「笑顔きらめく元気な学校」、「君の得意を見つけ 伸ばそう いいところ」、「つながる心 つなげよう未来へ」を知っている。	68%	84%
12	先生は、いじめについて私たちが困っていることがあれば真剣に対応してくれる。	82%	92%
19	学校のホームページはわかりやすい。	75%	92%

※コロナの影響も鑑み、日々の児童生徒の様子を注視し、また、昨今入学してくる児童生徒の実態の変化にあわせた支援を考えながら、子どもたちの思いに寄り添って指導していきたい。

- ⑦教職員の評価は全体的に下がった。昨年度より－12ポイントとなった項目22「学習環境」については、児童生徒の増加による特別教室の不足、ICT機器の不足などが影響していると考えられる。
- ⑧今年度、新設した【教職員】項目35「専門性」は85%、項目36「ヒヤリハット」は87%となった。教職員一人ひとりが支援教育の専門性を日々更新していけるよう、校外研修・講習会への参加を推進していきたい。「ヒヤリハット」については、職員朝礼で報告し全教職員で共有している。経過を観察していきたい。

【今後の課題】

- ①**コロナ禍の学校の在り方**・・・感染予防のため、学習活動の制限や行事の縮小などが続いているが、コロナ禍であっても可能な行事・学習活動の実施、また、PTA活動、保護者の参観、学校からの情報提供を工夫していく。
- ②**評価の改善**・・・次年度より、個別の指導計画を学習指導要領に即して評価の観点(3観点)を明記する様式に変更する。教職員においては、授業計画から評価まで3観点の視点を持って指導することをめざし、保護者には3観点評価について周知し、よりわかりやすい形で子どもの様子を伝えていきたい。
- ③**学校運営**・・・2年連続肯定的評価が70%台であった「学校運営」や「校内人事」に関しては、引き続き校内組織や会議の在り方を見直し、また、各分掌・委員会・学部の年度末反省等をもとに、次年度に向けて改善に取り組む。
- ④**ICTの活用**・・・学習活動でのタブレット等の活用は進み、教職員の評価は上がったが、保護者の評価は昨年度より下がり、無回答率も高い。肯定的評価は教職員より保護者のほうが－12ポイントと意識に差があった。情報発信不足も要因の一つと考えられるが、ご意見にもある通りオンラインなども含めた保護者のニーズに沿う形での活用には至っていない。教職員からも昨年度に引き続き機器・設備の不十分さの改善を求める意見がある。GIGAスクール構想等により全国的にニーズが高まっているが、現時点では必要な機器やネットワーク環境を十分整備することはできていない。1月中に高等部生徒数分を含めたiPadが配備され、校内のICT機器の活用は進む。1人1台の端末の活用推進のためのアクションプランを2月に策定し、本プランに基づいて、ICT関係に充てる予算の確保とICT教材の蓄積・共有、教員のICT活用のスキルアップ、オンライン(オンデマンド教材等)に取り組んでいきたい。

6. 学校運営協議会より(詳細は、別途Webページに掲載予定の「学校運営協議会実施報告書」参照)

- 今年度も多くの項目で肯定的な回答が多数を占めているが、ここで満足せずより高い目標が設定され、その目標に向けて努力が続けられるべきである。
- 保護者の無回答が多いことについて
- ・保護者が回答するには質問が分かりにくく、答えようがないものが多いと感じる。
 - ・学校教育活動などについてより一層の情報公開が求められる。
 - ・ある意味熱心な、学校教育に注目する保護者が増えているのではないかと(適当に回答していない)。
- 教職員項目19「学校運営」、20「人事」の評価が低いことについて
- ・教職員がよりよい教育を求めているともとれる。
 - ・教職員のやりがいを保証するような学校経営、校内組織の見直しと教職員の意識改革が必要。
- 行事の評価が2年前と大差ないことは教職員の工夫にあることと分析されている。教職員の頑張りが保護者と児童生徒に伝わっていることを意味している。
- 「ご意見欄より〈抜粋・要約〉」はとても丁寧に回答がされている。ただ単に「できません」に留まらない回答は学校の誠実な対応、学校の教育への深い思いにつながるものだと感じた。